

## 2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2019年4月～2020年1月

今回のイギリスへの交換留学は、私にとって大きな挑戦と冒険でした。そして、改めて、自分の周りにはいる方々からの支えによって成り立っていたことを実感しました。もともと英語が好きであり、また、海外旅行にも何度か行った事があったため、異国の地に一人で飛び込んでもやっていけると想像していましたが、実際はその正反対でした。フェリスの友達を除くと、全く知り合いがいない状況で、文化も異なり、言葉もネイティブから言われたことがきちんと理解できない状況が続き、その上、明らかに形式的で、普段ネイティブの方が使わないような、英語らしくない英語を話しているが故に、相手側から険しい顔をされたりするなど、苦しい日々が続きました。特に、最初の英語コースでは、私よりも長くイギリスに住んでいて、なんの支障もなく先生とコミュニケーションをとれている他の生徒の姿を目の当たりにし、「早く現在の英語力を伸ばして、クラスの授業や雑談を理解したい」と強く感じる日々が続きました。その為、毎日授業が始まる2時間前に大学へ行き、1人で授業の予習や基礎的な文法事項の整理、会話で頻繁に使う短い文章の暗記等を、図書館で行っていました。それ故に、イギリスで授業が始まって2か月を過ぎたころからは、語学コースで英語を第二言語として使っている方が、私に伝えたことを直ぐに理解して返答が出来たので、留学をするための準備や試験勉強も大切ですが、留学が出来たからそこゴールであるのでは無く、留学をより実りあるものにするための継続的な努力が一番重要であると考えられました。

また、日本以外の友達と多くの日々を過ごす中で、相手に感謝や敬意を言葉で伝えるだけでなく、ジェスチャーや行動で伝えることの大切さも実感しました。例えば、タイでは目上の人には必ず両手を合わせて挨拶をしてから、相手と話し始めます。これはタイの国教である仏教を国民が強く信じているからであり、このジェスチャーを自分が相手にすることによって、相手側も自分の子供の友達は、自分たちの国の習慣を理解している方である、と相手に対して親近感を抱くようになります。その上、自分の国の事について少しでも興味があったり、理解してくれている人の方が、自分にとっても相手にとっても、相手の事を思いやった心地の良い話し方や行動をすることができるため、良い交友関係を継続させられると感じました。

## 2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2019年4月～2020年1月

意欲的に取り組んだことは大学で行った課題です。9月から始まった大学の講義の中でグループワーク課題が出されました。その内容とはグループでイギリスにはない製品をもしイギリスの市場に取り入れたらその製品のローンチが成功するの否かをレポートにするというものでした。そのグループには幸い日本人の友達がいる、その他は台湾人、中国人、香港人と皆アジア人で比較的にアットホームな雰囲気でした。レポートに書いた製品は日本で開発されたウォシュレットです。グループワークなので役割分担をする必要があり、毎週分担してリサーチや書いたことを持ち寄り、ディスカッションをしました。偶然日本のプロダクトについて書くことになったので、自然とレポートへの熱が入り、ウォシュレットに関する情報を端から集めて、レポートのクオリティが少しでも上がればと必死でした。ほとんどのメンバーがそのように必死でレポート作りに励んでいた中、1人台湾人の女子が連絡なしでミーティングにも参加しなくなりました。これはグループワークでよく起こりうる問題の一つです。グループワークなので1人やらなくてもレポートには支障は出ないだろうという考えは分からなくもないですが、せっかくグループで一つのレポートを作り上げるのだから、メンバーみんなで最後までやり遂げたいという強い気持ちが私にあったので、解決策を考えました。その台湾人は普段授業でもグループワークでもあまり発言するほうではなく、話したこともあまりなかったため、少しでも距離を縮められたらと個人的にメッセージのやりとりを始めました。そうしてしばらくメッセージが続いてお互いのことを知り、徐々に距離を縮めることができ、彼女は終盤ミーティングに参加するようになり、積極的にレポートの役割分担もこなしてくれました。そうしてレポートをグループ皆で作ることができ、思いがけないことに70点という高得点を取ることができました。70点とはサセックス大学の現地出身の学生でも取るのが難しい点数で、エッセイやレポートにおいて60点とれば十分な点数がとれていると見なされるそうなのです。このことを先生から聞いて知っていたので、正直結果を見た時非常に驚きました。グループ内の団結を意識して、メンバー皆んなで力を合わせて最後までレポートに力を注いだ結果なのだと思います。一生懸命何か一つに向かって皆んなで一丸となって頑張ったあとに味わった達成感と良い結果を見た時の嬉しい気持ちは忘れることのない良い思い出です。

## 2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2019年4月～2019年8月

留学に行っているのだから当たり前かもしれないが、思っていることがなかなか通じなかったり、文化の違いを感じることによるストレスは生活していく上で負担だった。たくさんあった問題の中で一番のネックは、やはり「英語」だった。イギリスに来て感じたのは、日本で自分がやってきた勉強はほとんど通用しないということだ。いくら勉強していたとしてもイギリスで使われる、「生の英語」には勝てない。リスニングはそんなに苦手ではないと思っていたのに実際に話しているのを聞いても理解できないことが多々あったし、スピーキングについては言おうとした言葉はあってもとっさに出てこなかった。ライティングについては今まで書いてきたものよりも高いレベルが求められた。また、リーディングについては文章の内容も専門的なものが多かった。自分なりに努力して、少しはできるようになったものもあったが、なかなか思っていたようには伸びなかった。そのため、これまでやってきたはずなのに使えるようになっていないことに落胆した。現地での授業は日本での授業と全く違っていて、会話をしながら進んでいったが、英語でしか話が通じないことも相まってとても難しく感じた。また、思ったよりも現地の人と話したり、英語に触れる機会は実際には少なかったり、ホームステイも思っていたのと違うことが多々あったりしたため、多少なりともショックはあったように思う。

しかし、留学中に問題ばかりだったかということそうでもない。日本とは文化や学校の雰囲気などいろいろな違いがあって私もこうしたらいいんだな、とか、このようにしたらもっと日本でも皆が生きやすい世の中になるのではないかと考えさせられたり、学ぶことが多く、たくさん刺激を受けた。留学するまでは、今よりも価値観が狭かったであろうが、いろいろな考えがあることを学んで前よりも視野が広がったと感じる。イギリスと日本、それぞれ一長一短だが、物事の考え方など、いいと思った要素で自分で変えられることであれば変えていきたいと思う。実際にイギリスに行って生活してみないとわからないことや文化の違いを実際に体感できたことは良い経験になった。異国での生活やそれ以前のビザの手続きを通して、自分で物事を解決する力がついたと感じる。目の前で起こった問題に対して、その時点で最善の方法を考え、行動する。留学する前まで、このような経験をしたことはあったが、異国の地でここまで追い込まれるものは経験したことがなかったので大変だったがいい経験になった。言語面については、はっきり成長したとは言い難いが、自分の内面の成長が感じられた中身の濃い5ヶ月だった。目標としていた実際の正規の授業は受けることができなくて悔しいが、この悔しさを忘れず、バネにしてこれからも勉強を頑張っていきたい。